
第1章

**ARENAを使って
メールをもっと
活用しよう**

01-01

電子メールが生活を 変えたね

思えば、電子メールってすごい世界だ。ちょこちょこつと伝えたい内容をタイプして、宛先（アドレス）を指定し、「送信」ボタンを押すと相手の“住所”が世界のどこであろうと、瞬時の内に“配達”される。費用だって、今までの通信手段に比べれば、ウンと安い。

電子メールのメリットはそれだけじゃない。いっぱいありすぎて、そのすべてを書き尽くすことはできないけれど、たとえば、“お互いの生活時間に土足で踏み込まない”ということも特筆していい。送り手は、自分の好きな時間に送信し、受け手は、自分に都合のよい時間にそれを開いて読むことができる。電話は“瞬時に相手とコンタクトをとることのできる”通信手段だけど、いかにも強引に自分の時間に割り込んでくる。

宛先を工夫すれば、多数の人に同時に同じ内容を送信することもできる。以前からよくあった「電話連絡網」（AさんはBさんとCさんに連絡。BさんはDさんに……というヤツ）なんて必要ない。

それに、出したメールも受け取ったメールもそのまま保存しておける。電話口でボールペンを探してオロオロすることもないのだ。

だいいち、返事がラクだね。返信ボタンをクリックするだけで、相手の“宛先”が正確に指定できる。相手からの通信内容も“引用”することがカンタンだから、極端なハナシ、「了解」のひとことだけ書いて送ることも可能だ。

でも、ここで何もぼくがこんなことを書かないでも、そんなことは読者諸兄はご存じの通りだ。だからこそ、急速にメールは普及したわけだし、プライベートでも、仕事上でも、すごい勢いでメールが活用されている。もはやメールなしでは仕事も生活もままならない、そう思っている人は莫大な数に登るはずだ。もちろんかくいうぼく自身も例外じゃない。

●メーラーという不思議なジャンルのソフト

電子メールはインターネット網を介して送受されるわけだが、受け手も送り手も、“電子メールを取り扱うためのソフト”を使ってそれを取り扱う。そのソフトのことを「メーラー」と呼ぶ。「(電子)メールソフト」と呼ぶ人もいれば、(ちょっとコジャレて)「メールユーザーエージェント」という人もいる。どう呼んでもいいんだけど、この本では「メーラー」と呼ぶことにしよう。

念のために申し添えると「メーラー」という名称のソフトがあるわけじゃない。これはソフトの“ジャンル”の名前だ。メーラーというジャンルのソフトという意味。メーラーというジャンルには、数多くの個々のソフトがある。この本のテーマである「ARENA Internet Mailer」もそのひとつ。このほかにも、Macで使えるものだけでも、しかもその中で比較的有力なものだけをあげても十指に余る数のメーラーがある。

メーラーというのは、考えてみると不思議なジャンルのソフトだ。

メールは一種の統一規格である。メーラーによって、他のメーラーと違う形式のメールを扱うわけにはなっていないのが原則だ。そりゃ当然のことで、メーラーごとに取り扱える形式が異なっているのなら、困ってしまう。だから、メーラーというのは極言すると、“同じものを同じように取り扱う”という特徴を持っている。

つまり、メーラーは一見、どれを使っても変わらないソフトに見えてしまう。現にそう明言する人も数多いのは事実だ。

そういう思いに輪をかける現象がある。Windowsにしても、Macにしても“まともなメーラーがタダで使えちゃう”ということだ。

Macの場合、OSをセットアップすると、そのままマイクロソフトの「Outlook Express」が使えてしまう。手間も要らないし、もちろん料金の支払いも不要だ。

タダだから、どっか手を抜いたソフトなんじゃないか、

と思うと、これがなかなかよく出来たメーカーで、いろいろ細かいところまで気がつく、傑作ソフトなのである。「Outlook Express」だから、これができない、あれが不備だというようなことはほとんどなく、なんでもそつなくこなしちゃう。

だったら、なんで手間をかけお金を払って別のメーカーを使わなければならないのか、ということになってくる。

● ARENA を使う幸せ

ARENA に限らず、小さな開発会社が開発しているソフトに対してお金を払って使い続けるということは、ある意味でその開発に参加するということでもあるように思う。そりゃ「参加」と言っても、濃いものじゃないのは当然だが、参加は参加だ。サッカーのプロチームのサポーターのようなものだ。サポーターにはサポーターの喜びがある。自分が鼠麴にしているチームが着実に力をつけていくのを、陰ながら支える喜び。その力をもらう喜び。

ARENA は、そういった意味で、非常に応援のしがいのあるソフトだ。わかりやすいインターフェイス、かゆいところに手の届く豊富な機能、随所に見られる遊び心、そして時として見せる割り切りのよさ。

中には、なんでこうなるの、という部分もないではないが、それでもやっぱりファンであり続けてしまう。そんなソフトだと思う。

01-02

ARENA はこんなメーカー

● わかりやすいインターフェイス

ARENA がどのようなソフトで、どのような機能を持っているかは、それこそこの本を一冊かけて説明していくわけだが、冒頭にあたってざっくり概観してみる。

ARENA の最も大きな特徴は「インターフェイスがわかりやすい」ということだろう。このわかりやすさの基本は、意識して Mac OS の操作体系を忠実に準拠

しているというところにある。ARENA の Top ウィンドウにはメールを分類・格納するためのメールボックスが並ぶが、これは Finder のウィンドウそっくりだ。外見だけじゃなく、その操作方法や操作感覚もよく似ている。

だから、ARENA は使い始めたその日から、Mac ユーザーだったら、半ば自然に使いだすことができるのだ。

●豊富な機能

先にメーラーの基本機能はどれも大同小異だと書いた。たしかに標準ルールで作成されているメールを送受するのが機能の中心だから、ソフトによる本質的な差はないといえる。しかし、細部に着目すると、メーラーごとに大幅に違ってくる。そして使い勝手をささえるのは、えてしてこのような細部の仕上がりに左右される。

ARENA は驚くほど豊富な機能を持っている。しかもそれらはユーザーの使い勝手をよく考えた上での機能だ。一例をあげると、ARENA は添付ファイルの取り扱い方に3通りのバリエーションを持っている。これは「メンバーの中で最終的に意見がまとまらなかったから“両論併記”で3つにした」と前に ARENA のメンバーのひとりに聞いたことがある。

それにしても、添付ファイルの取り扱い方を3通りのやり方から選べるメーラーはあまりないのではないだろうか。

●遊び心

ARENA は遊び心も持っている。たとえばメールの着信を通知する手段として“着メロ”を指定でき、しかもそのメロディを自由にカスタマイズするために ATML (ARENA Tiny Music Language) という言語まで用意しているといった具合。

また、これは遊び心とはちょっと違うかもしれないが、アイコンやウィンドウが徹底的にカスタマイズできると

いう点もあげてもいいだろう。ARENA 開発陣のひとりの Top ウィンドウには、大きなたればんだが貼り付けてあった。

メーカーは毎日使うものであるから、自分好みにカスタマイズできることは大きい。カスタマイズすることによって、一層手になじむ道具になるように思う。

●すつきり割りきったところもある

ARENA は HTML メール の作成・発信が できない。これは「機能の不足」というより、開発側のひとつの意思表示の現われだと思う。個人が使うメーカーにあって、HTML メール の作成をサポートすることは百害あって一利なし、と判断されたのではないだろうか。

こういうところに ARENA の魅力の本質があるように思えてならない。ソフトは時に恐怖心により機能を増やす。開発側が他のソフトにある機能を自分たちも兼ね備えておかないと、マイナス評価がされるのではないか、という恐怖心だ。そのため、多くのソフトでは、そのソフトの持っている全体の「哲学」といったものと無縁の（そして大多数のユーザーにとって使えない）機能がつき足しされていき、なんだかわけのわからない世界になっていく。ARENA は随所で、他のソフトはやっているかもしれないけど、うちはやらない、といった割り切りを見せている。

これには好感が持てる。

01-03

ARENA プロジェクト

●4人の青年

ARENA は純国産のメールソフトだ。このソフトの名前そのものも、開発した5人の頭文字をつなげたものだ。そのうちのひとりとは現在抜けて、残り4名がARENAの開発に従事している。そしてその4人の会社がARENAプロジェクトだ。

ばくは特に愛国者というわけじゃないけど、こういう会社を応援しないでどこを応援するんだ、という気に

ならないことはない。なにもアメリカの大きな会社にばかりトクをさせることはサラサラないとも思う。

そして ARENA はそういう“最良”感情に十分応えてくれる実力のあるソフトなんだ。

日本政府は IT 振興策として IT 講習会とか、(もう終わったけど) インパクとかやっているけど、そんな(シツレイナガラ) 効果のない施策なんかほどほどにして、ARENA のようなベンチャーの開発チームに対して、もれなくギガビット通信回線および温泉付き那須の別荘かなんかを支給すればいいのに、と思う。そうすりゃどんどこ素晴らしいソフトが誕生し、日本の未来も明るくなるのに。

あ、関係ないか。

ともあれ ARENA はなかなかのソフトなのである。では、次ページ以降、それを順番に説明していくことにする。

